

ダイヤモンド  
エレHD

# インドネシア工場増強

## 点火コイル 年産2倍超 350万本



インドネシア工場の  
年産能力は350万  
本となる

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス（HD）は2021年3月期までに、インドネシア工場（ブカシ県）の自動車用点火コイル生産能力を現状比2倍以上の年間約350万本に増強する。投資額は3億円程度と見られる。日系やアジア系車メーカーからの受注増に対応し、増産体制を整える。

ダイヤモンドエレクトリックは点火コイルを生産してトリックHDのインドネシア工場は19年に約5億円を投じて稼働した新工場。賃借した工場建屋にタイのチャチエンサオ島の工場から生産設備を移し、現地の日系車メーカー向け

点火コイルを生産してきた。現在の年産能力は約150万個。増強する生産能力はアジア系メーカーからの新規受注分などに充てる。ダイヤモンドエレクトリックHDの自動車用点火コイルにおける

世界市場シェアは15%前後とみられる。点火

コイルは車の電動化が進んでもエンジンを搭載するハイブリッド車（HV）の需要が増えるため、10年程度は緩やかな市場拡大が続くと見ている。車の低燃費化に貢献する高性能品などを開発して事業を拡大し、市場シェア首位を目指していく方針だ。

同社の点火コイルを含む自動車機器事業の19年3月期売上高は約384億円。22年3月期までの中期経営計画では東南アジア、欧州などで事業を広げ、同事業の売上高を500億円規模に引き上げる計画だ。